

## \*\*\* 今日の健康 (11月) \*\*\*

### <前立腺癌と最新治療法>

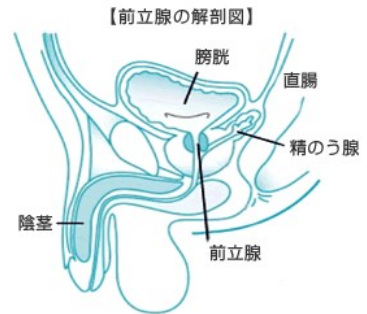
前立腺癌は先進国において頻度の高い悪性腫瘍であり、わが国においても近年増加傾向にあります。前立腺癌は男性に存在する前立腺から発生する癌です。前立腺は精液を作り、年を取るにつれ大きくなること多い臓器で、高齢になるほど前立腺癌の罹患率は高くなります。遺伝的な要素があるため肉親に前立腺癌の方がいると、前立腺癌にかかる可能性が高くなります。

前立腺は膀胱の下にあり尿道を取り囲むように存在しているため、癌ができて尿道を圧迫すると、前立腺肥大症と同じように排尿困難や頻尿といった症状がみられるようになります。

前立腺癌は骨に転移しやすい癌のため、腰痛や背部痛などで見つかることがありますので、50歳以上でそのような症状が続くようでしたら一度PSA(前立腺特異抗原)値を測定してもらいましょう。この癌は「前立腺肥大症」という病気と症状が酷似しているため、早期発見が難しいと言われていましたが、近年では健診時のPSA検査の普及などにより、早期に発見される症例がほとんどとなり、以前のように骨転移などをきっかけに発見される症例は激減しました。

### <検 査>

前立腺癌はまったく症状がない早期から、血中のPSA値が上昇します。健診時の直腸診で前立腺に硬結(硬い部分)があったり、PSAの高値が指摘されたり、また経直腸的超音波検査で前立腺や精嚢の形態に変化がある場合は、前立腺組織を一部採取し顕微鏡で調べることによって、早期の段階で前立腺癌と診断できるようになっています。



### <治 療>

前立腺癌が前立腺内にとどまっている場合、年齢75歳以下で大きな合併症がなければ、前立腺全摘除術の適応になります。他に放射線治療、ホルモン治療があります。ホルモン治療は精巣を摘除する方法の他に、LH-RH拮抗剤の皮下注射で男性ホルモンを低下させる方法、男性ホルモン拮抗剤、女性ホルモン薬などがあります。

前立腺がんに対する治療法は従来、手術療法、放射線療法、ホルモン療法などが行われていました。しかし各治療法とも、身体に対する負担、副作用、合併症、治療期間などに関して様々な問題があり、新しい治療法の出現が望まれてきました。

### <前立腺癌に対する新しい先端治療法>

従来の治療法とは異なる治療概念であるTFT(targeted Focal Therapy)は、前立腺内の全ての癌病巣を非侵襲的な方法で治療を行います。限局している前立腺癌に対し温熱治療(HIFU:高密度焦点式超音波)を使用し、身体に負担がかからず(低侵襲的)副作用が少ない治療法です。本邦報告の治療効果も全体で76%、限局性癌では90%と従来の方法に比べても遜色がありません。利点として皮膚や筋肉に傷がつかない、術中の出血がなく手術治療に比べ安全、約3泊4日と入院日数が短期間、日常生活に早く戻れる等があります。

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861  
天文台通り多摩信用金庫のななめ裏